# 星　空

高岡高校定時制

第１３７１号（Ｒ２第１９号）２０２０．１１．１８

www.kochinet.ed.jp/takaoka-h/

## いのちの教育！　～ 思春期・性に関する講話 ～

講師の福重さん（右）と山口さん（左）

11 月 13 日（金）の総合・ＬＨは、「いのちの教育」を行いました。

講師は、国立高知病院の助産師である福重眞紀さんと山口果奈さんのお二人、Zoom ミーティングを使って定時制で初めてのリモート講演となりました。

講話のテーマは、「命の誕生を知り、命の大切さ考えることができる」、「自分と異性を大切にするための行動を考えることができる」の２つでした。

前半は福重さんから、赤ちゃんが誕生するまでを妊娠初期から 12 週、20 週、32 週、37～40 週の赤ちゃんとお母さんの様子を、写真を交えて話しました。

妊娠 12 週の話の中で、「ニコチンで血管が収縮して子宮や胎盤への血液が減り、低出生体重児が生まれる。一酸化炭素は酸素を運ぶ機能が低下して血液中の酸素不足し早産につながる」と、妊娠中のタバコの影響について触れました。先日のがん教育でもタバコの影響の話がありました。タバコが人体に与える影響を改めて知ることになりました。

最後に、「あなたが生まれる確率は 1440 億分の 1、みなさん一人ひとりはかけがえのない命」と話を締めくくりました。

後半は山口さんが、人工妊娠中絶や性感染症について話しました。「赤ちゃんを育てるために必要なものは何？」との問いかけから話は進み、男性と女性では性の考え方に違いがあるからお互いを理解することが大切、高知県の 10 代の女性の人工妊娠中絶の現状、母性保護法、人工妊娠中絶が女性の体に与える影響、性感染症の恐さ、望まない妊娠をどう防ぐか、といった内容が話されました。

医療現場で働く人が経験したり考えたりしたことを直かに聞くことで、いのちと性について、自らの考えや行動を考えるよいきっかけになったと思います。

～ 生徒の感想から（抜粋） ～

・赤ちゃんを育てるために必要な経済力・愛情・時間について「なるほどなあ」とよく理解できました。自分の知識や周りからの理解も改めて重要だなと感じました。

・妊娠や出産の話だけでなく、思春期についての話もあってためになりました。自分の言ったことや行動に責任が持てるよう、自分で選択して考えていく力を身につけたいです。

・子どもが好きだから、子どもが欲しいって軽い気持ちで思っていたけど、しっかり考えてみると、経済力はないし、もしできたときに育てられる責任や覚悟などが今は全くないので、しっかりできるようになった時に子どもをつくりたいです。

・今日の話を聞いて、女性の大変さや、性についての責任を知ることができました。

・自分もパートナーができた際は、相手を思いやりたいと思いました。

## 避難訓練・防災学習　～地域での訓練にも参加を～

10 月 30 日（金）の総合・ＬＨでは、地震避難訓練と防災学習を行いました。

夜間での訓練ということもあり、地震発生時には教室や廊下の電気をオフにしています。電源をオフにすると、今回は廊下の非常用蛍光灯が点灯しなかったので、暗闇の中で机の下に身を隠して地震の揺れに備えることになりました。

揺れがおさまった後、生徒・教職員全員の安否と建物の被害を確認して、担任の先生方が避難場所とした視聴覚室へ誘導、全員が無事に避難できました。

その後は、防災学習を行いました。はじめに、質問の内容に○か×で答える防災クイズにチャレンジしました。「南海トラフなどの巨大地震に備えて最低一週間分の非常食を用意するとよい」、「津波は英語でビッグウェーブと言う」、「海岸付近での津波の速さは時速 20km ぐらいである」など、全部で 12 問のクイズに答えました。答え合わせの結果、最高得点者は 10 問正解した松岡君④でした。

その後は、県教委作成の『南海トラフ地震に備えちょき』の「揺れ」編と「避難生活」編について、スクリーンに写し出されるスライドの内容を、解説を聞きながら学習しました。

「揺れ」編では教室で地震が起こったとき机の下で身を守るときのポイントを、「避難生活」編では避難所で生活する上で配慮するべきことを確認しました。

振り返りシートのアンケートから、「地域の避難場所を知らない」、「日時がわかっていても地域の避難訓練に参加しない」と答えた生徒が半数いました。災害時には、地域の人たちと助け合って生き延びることが大切です。家族や友だちと一緒に地域で行われる避難訓練に参加しましょう。